

学校や地域の取組から学ぶ

学校図書館を活用した 取組事例集

＜平成22年度の取組＞

本校では平成21年度より、「ことばの教育」三本柱を重点目標に掲げています。三本柱とは、①PISA型読解力の向上を目指した授業改善、②読書活動の充実、③NIEの推進です。これらは全て、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるためには、その基盤となる「ことばの力」を身に付けさせることが重要であるとの考えから設定したものです。1年目の昨年度は、読解力向上の三つの目標と七つのねらいを職員で共通理解し、実践に移すことが目標でした。その結果、「読解力表」(*)を作成することができ、本年度はそれを手がかりにして更に授業改善に努め、図書の利用とNIEを新たに付け加えた「新読解力表」を作成しました。

読解力表:PISA型読解力の七つの指導のねらいを参考にして教科ごとに各単元で育成する能力を一覧表にしたもの

研究が単年度で終了することなく、次年度の参考資料にもなるものを作成できたことは大きな成果だと思っています。

「ことばの力」を付けるという意味からも、学校図書館の充実は、本校にとって喫緊の課題でした。これまでは、ごく一般的な学校図書館でしたが、学校司書の配置もあって目覚ましい変容を遂げました。平成21年度は、図書館の環境整備に迫られました。そして、本年度は、これまでなかった「読書活動年間指導計画」「読書指導年間計画」「学校図書館利用指導計画」等を策定し、教育計画の中に位置付け、読書活動や図書の利用を更に促進するため、以下のような実践をしてきました。

●児童の実態を把握すること

児童の読書の傾向をつかむための読書アンケートを実施したり、貸出状況を記録した個人ファイルを整備したり、貸出冊数等のデータを一元管理したりしました。これにより、学級担任がいつでも児童の利用実態が把握でき、読書指導や利用指導等に活用できるようになりました。時には生徒指導上の問題にも活用できたケースも見られました。



●ボランティアの活用を拡大すること

本校では、週3日間、朝に読書の時間を設定し、毎週水曜日には地域の読み聞かせボランティアの方々による「読み聞かせ」を実施しています。常時5名前後の方々に来てくださいます。時には、外国の絵本を英語で読み聞かせるということもありました。また、保護者の方々にも、図書館業務のボランティアを広く募集し、お手伝いいただいています。学校図書館の経営の様子を知っていただくよい機会になっています。

●各教科等の学習に図書を積極的に活用すること

図書の活用例を具体的に職員が共有できることが活用の動きを加速すると考えて、研修だよりで、「実践項目の評価」と「読解力表を活用した実践例」を毎月紹介することにしました。この実践例の中に、図書利用とNIEの実践も含めることで、他学年の実践例なども把握したり、参考にしたりできるようになりました。

●司書教諭と学校司書の協力及び学級担任との連携強化

学級担任でもある司書教諭と学校司書が協力することで、図書館経営に深まりがみられ、結果的に読書量の大幅な増加につながりました。さらに、司書教諭の適切な指示により学校司書の活躍が保障され、各学級担任の要望に応じ、学習に活用できる図書の提供がスムーズになり、各教科等での図書館活用も増えました。学校図書館にない本についても、公立図書館との連携で借りることができ、学習に役立つ図書館経営に生まれ変わっていききました。

今後は、各教科等の各単元で、実際に利用価値の高かった図書のリスト作成を行っていきたいと考えています。

「子ども司書」の制度化と活躍

平成21年度から、矢祭町および全国からの寄贈本45万冊を誇る矢祭もったいない図書館では、町内の小学校からの提案を受けて、小学4年生から6年生を対象とした町独自の認定制度としての「子ども司書」講座を含めた「矢祭町子ども読書の街づくり」をスタートさせました。

「子ども司書講座」には、本校からも11名の児童が参加し、NDCによる整理と配架、本の修理やカバーリングの仕方、俳句コンクールへの参加、手作り絵本教室、ブラインドタッチによるキーボード入力、絵本の読み聞かせ技法の習得、貸出・返却の手伝いなど、全部で15回の講座に参加し、図書についての知識を高め、読書についての興味関心を高めてきました。

昨年2月に誕生した第1期生5名と、今年度の第2期生6名は、子どもと本、家庭と本をつなぐ図書館サポーターとして校内・校外で活躍しています。校内での下学年の子どもたちへの読み聞かせ活動などで、学校図書館が子どもたちの「心の居場所」となり、子ども同士の心の交流の場となりつつあります。



豊富な図書を活用した司書支援による授業の充実



本校では、一昨年度より、図書室の蔵書を物語や絵本等は書名による50音順に整理・配架したり、調べ学習用の図書は、教科ごと・領域ごとに配架したりするなどして、「学習情報センター」としての機能の充実を図るなどの取り組みを進めてきました。

また、「矢祭もったいない図書館」の司書等との連携により、多くの関連図書を「もったいない図書館」から借り受け、図書館司書が授業に支援者として加わったり、図書の利用の仕方や調べ方について児童の活動を支援したりするなどして、司書のレファレンスサー

ビスカを生かしたチームティーチングによる多くの授業を実施してきました。

こうした実践から、図鑑や年鑑だけでなく、いままで楽しんだり、良さに浸ったりするだけの絵本からも、自分が必要な情報を収集・選択し、自分が主張したいことの根拠として利用する発表資料を作るなどして、言語活動の充実が図られ、発表力が向上してきています。

学校図書館活性化のための総合計画

「ベーシックシート」による図書館の自己評価

千葉県教育委員会が独自に作成した「学校図書館自己評価表《ベーシックシート》」を使って、すべての小中学校が、自校の学校図書館の現状を把握しました。

「ベーシックシート」は、「物的環境」「人的環境」「活用」「意欲の喚起」「外部連携」の5分野19項目について「達成しているかどうか」を点検するシートです。点検の結果、12項目以上達成している学校には県から「優良学校図書館マーク」を交付しました。

*各小学校において、記入するシートです。

小学校<ベーシックシート>

平成22年度 学校図書館自己評価表《ベーシックシート》

〇〇市町村立〇〇小学校 記載者名 (司書教諭・図書館担当教諭など) 〇〇〇〇

		字級数	学校図書館図書標準の定める冊数
		平成21年度末の学校図書館の蔵書冊数	学校図書館図書標準の達成状況

該当欄に○を付けてください。

		達成している	おおむね達成している	達成していない
物的環境	1 学校図書館図書標準が80%以上達成されている			
	2 古い図書を廃棄し、新しい図書に買い替えている			
	3 教職員が教材研究等で活用できる図書が整っている			
	4 日本十進分類法(NDC)等により図書が分類され、書架が整理されている			
人的環境	5 掲示物の工夫など、部屋の環境が整っている			
	6 司書教諭、又は図書館担当教諭等としての職責を遂行する時間を確保するため、授業時間数の軽減等校務分掌上の配慮をしている			
	7 学校図書館専任(市町村から派遣される学校司書や読書指導員等)の職員が配置されている			
	8 児童が図書委員として活動を行っている			
	9 学校の方針のもと、司書教諭等が窓口となりボランティアが読み聞かせや図書整理等の活動をしている			
	10 児童の在校中(放課後は含まない)はいつでも開館していて、学校図書館を活用できる			
	11 年間指導計画に学校図書館の活用が位置づけられている教科等がある			
活用	12 各学級・学年とも授業において計画的に学校図書館を活用している			



「優良学校図書館マーク」による意識の高まり

「優良学校図書館マーク」の交付により、学校や市町村教育委員会の学校図書館の活性化に対する意識が高まりました。

さらに、今回、優良学校図書館に認定されなかった学校の中で、学校図書館の改善に積極的に取り組むたいという学校を5地域から2校ずつ選び、県の研修によりスキルアップされた学校図書館アドバイザーを派遣して、学校図書館の改善を行いました。

学校図書館活性化/ウハウウの共有化

10校の研究協力校では、保護者や地域のボランティアを募り、学校図書館内の図書をNDCによる分類配架に並べ替えたり、児童生徒の読書意欲を喚起する特設コーナーを図書館内に設置したりするなど、各学校で工夫を凝らして環境を整備しました。また、校内の全職員対象に学校図書館の活用について研修を行い、様々な教科等で、学校図書館を活用した授業を積極的に行いました。

こうした取組の一つ一つをもとに、『ゆたかな学校図書館づくり』ヒント集』をまとめ、全小中学校に配付し、一層の学校図書館の活性化を図ります。



「育てよう！学校図書館で。つながろう！学校図書館と。」

- 1 人を育てる...「子ども司書養成講座」
- 2 心を育てる...「読書会」
- 3 活用型学力を育てる...「調べ学習」

平成22年度、千葉県柏市は、このテーマのもと3本の柱を立てて学校図書館活用の活性化に取り組みました。中でも、「子ども司書養成講座」は、参加希望者がたいへん多く、反響の大きいイベントとなりました。

「子ども司書養成講座」は、柏市教育委員会と柏市立図書館が協力して企画したイベントです。本が大好きで司書の仕事に興味のある児童生徒を対象に、全10回の講座を開催し、本を活用する力、司書としての知識技能を身につけた「子ども司書」に認定しました。

全10回の講座のカリキュラムとテキストは、教育委員会から学校に配置している学校図書館指導員が考えて作成しました。学校での講座9回と、柏市立図書館の「子ども司書会議」に参加することを基本とし、詳細は各学校の実情に合わせて時間と回数を調整して良いこととしました。

カリキュラム（全10回）

- (1) 基礎研修（学校で4回受講）
 - ①子ども司書の心得 等
 - ②本の分類、配架 等
 - ③選書、カウンター業務 等
 - ④本の修理、掲示物作り 等
- (2) プレゼン研修（学校で4回受講・実習）
 - ①読み聞かせ、ブックトーク 等
 - ②本のクイズ、朝読書 等
 - ③新刊展示会、季節のイベント 等
 - ④読み聞かせ実習 等
- (3) 実習（学校で1日）
- (4) 子ども司書会議・認定式（図書館で1日）

「子ども司書会議」の内容

- (1) 自己紹介
- (2) 講義「図書館の意義、図書館での仕事」
- (3) 実技「図書館めぐり」
- (4) 子ども司書会議
「こんな図書館あったらいいな」
- (5) 「子ども司書」認定書 授与式



学校での子ども司書養成講座
十進分類法などを学ぶ

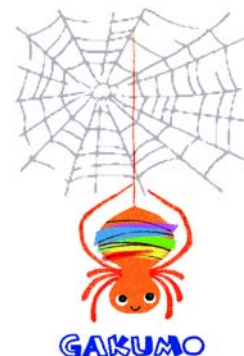


子ども司書会議での
図書館めぐり

このイベントへの参加は任意として提案しましたが、平成22年度は、市内61校のうち26校が参加し総勢210名の「子ども司書」が誕生しました。参加した児童生徒にとって、生涯にわたって本と親しむきっかけとなったことと思います。また、本物の司書の熱い話を聞き、キャリア教育の一環ともなりました。さらに、今後この「子ども司書」たちが、学校や地域で読書活動を啓発する役割を担うことが期待できます。

何より、柏市教育委員会と柏市立図書館、また、学校と柏市立図書館が連絡を密に取り合うことで、とても親しくなり、連携体制が強化されました。柏市の取組として、今後も続けていきたいと考えています。

東京学芸大学には13の附属学校園があります。小学校、中学校、中高一貫校、高校には非常勤ながら、専任の司書が常駐し、児童生徒の読書環境を整え、聞く・読む・調べる・話すという様々な言語活動の場として学校図書館を活用してもらえるよう働きかけをしています。そこで学校図書館を有効に活用している附属教員の事例を蓄積しデータベース化することで、学校図書館が学びに役立つことを内外に伝えられるのでは、と考えました。



サイトURL <http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/>



【5つのコンテンツ】

1.<学校図書館活用データベース>

事例は校種・教科別の検索もでき、可能な限り指導案・ブックリストを掲載しています。授業者・司書のコメント付けました。2年目からは、学外事例の協力もともとめ、質・量の向上をめざしています。

2.<授業と学校図書館>

学校図書館を効果的に使っている先生にインタビュー！学びの形が変わります。

3.<情報リテラシー教育>

学校図書館のしくみを理解し、学校図書館を上手に活用できるようになるために、先生と司書が日ごろ行っている取組を、カテゴリー別に紹介するページです。オリエンテーション／分類の仕組み／図鑑・百科事典の学習／参考図書の使い方／要約のしかた／レポートの書きかた／著作権...etc.

4.<学校図書館の日常>

附属学校司書による活動を、よみきかせ(おはなし)／ブックトーク／広報／テーマ展示／レファレンスの5つに絞り、トピックも含め毎月の附属学校の様子を月替わりで紹介しています。尚、トップページからリンクした「今月の学校図書館」には、附属学校図書館の毎月の取組の様子を写真とともに紹介しています。

5.<テーマ別ブックリスト>

データベースに掲載したブックリストに加え、各学校の現場の司書が、必要に迫られ、あるいは何かの折に役立つのではないかと考えて、作ったブックリストを集めています。原則、エクセルファイルでダウンロードできますので、必要な方はそのまま、または加工しての利用が可能です。現在は、テーマを50音順に単純に並べていますが、将来的には、カテゴリー分けして使いやすいものにしていきます。

【2年間の取組の成果】

学校図書館を活用するうえで、司書と教員が授業で何をめざすかの共通理解を持つこと、また授業後のフィードバックが蔵書を作っていくうえでとても有効であることを実感することができました。また、データベースを公開し、2回の報告会を開くことで、外部の方々からも大きな反響をいただきました。教員養成大学の附属学校としてこのデータベースを今後も充実させていきたいと考えています。

◇事例データ(2011.3月現在)

授業事例数

幼稚園	小学校	中学校	中高一貫	高校	特別支援学校
1	23	10	4	12	1

教科別事例数

国語	社会	算数・数学	理科	保健体育	音楽
19	7	1	5	3	1
美術・書道	技術家庭	英語	生活科	特別活動	総合活動
2	3	1	2	3	4

授業と学校図書館 インタビュー数

小学校	中学校	小中一貫
3	2	1

情報リテラシー学習

オリエンテーション	分類のしくみ	図鑑の学習	参考図書の使い方
2	3	1	1

【学校図書館の日常】…常住する司書による様々な読書への働きかけが、児童・生徒の学びの基本となる読む力を育むことに繋がり、授業での取組がより効果的になると考えます。以下その取組の一部を掲載します。



読み聞かせには、自分で読むのとは違う楽しみがあります。だから、子どもたちは本を読んでもらうのが大好き。「この本おもしろいから一緒に読もう」

こうした読み手の気持ちや、声を通して聞き手に伝わり、その本の魅力は深まります。



「今日はどんな本？」そんな声が聞こえてくる子どもたちの顔を浮かべながら、また次の本を探します。

先日、4年生の図書の時間に読み聞かせしたのは、「プーがお客にいて、動きのとれなくなるお話」『クマのプーさん プー横町にたった家』(A.A.ミルン作 石井桃子訳 岩波書店)の一話です。もちろん、クマのプーさんのことは、みんなよく知っていました。でも、原作を読んだことのある人はほとんどいません。ですから、プーの世界を、ことばの響きとともに、想像の世界を広げながら味わってもらいたいと思い、読み始めると... すっかりみんな夢中です。ウサギの穴にやって来たプーが、“そこにいないことになっている”ウサギとのやり取りにあちこちで笑いが起こったり、穴に詰まって落ち込んでいるプーの行く末を心配そうな表情で見守ったり。それぞれに場面を思い浮かべて、会話のおもしろさと物語の展開を楽しんでいるようでした。読み聞かせのあと、この本には借り手がつき、岩波少年文庫版にも借り手がつき、その後もこのクラスで次々に借りられています。プーが図書室の棚に戻ってくるのは、しばらく先のことになりそうです！

(附属大泉小学校 小野寺愛美)

【学外協力校一覧】

神奈川県立相模原高校／埼玉県立新座高等学校／埼玉県立飯能南高等学校／玉川聖学院／東京都おおさわ学園三鷹市立羽沢小学校／東京都鷹南学園三鷹市立中原小学校／千葉県市川市立稲越小学校／千葉県袖ヶ浦市立昭和中学校／千葉県船橋市立塚田小学校(校種別50音順)

児童生徒の主体的な学習活動の推進に向けた 学校図書館の機能強化の進め方

長岡市教育委員会

■ 長岡市教育委員会では、学校図書館の活性化に関する取組を更に深め、広げるため、学校図書館や図書を活用した調べ学習や言語活動の実践を重視しました。また、そのもとになる日常活動や環境整備の在り方を明らかにしたいと考えました。

まず、協力校(5校)が調査研究の趣旨を踏まえて実践の構想を固めました。その支援に当たるよう、10名の調査研究協力員(以下、協力員)を各協力校に2人ずつ、概ね週2回、1回当たり4時間を基本に派遣しました。協力員は司書又は司書教諭の有資格者で、公募によりました。加えて、市立図書館の司書2名を学校や協力員への指導助言役となる支援スタッフに依頼しました。

■ 実践の内容を紹介します。

<A校の実践>

調べ学習にあたり、児童の調べる事柄を授業者が把握し、それに基づいて協力員が関連図書を集めました。

例えば、4年理科「月と星」の学習では、授業中に星座を観察することができないので、図書を活用することにしました。校内で不足しているものは協力員がリスト化し、市立図書館や他校から調達しました。また、学校図書館を活用した言語活動を試みるよう努め、実践例をたくさん集めることができました。

5年国語「スマイルブックフェアをしよう」では、児童が学校図書館からそれぞれが推薦する図書を見つけ、推薦する理由を明らかにしながらスピーチをしました。推薦図書を決める際には協力員が授業者とともに助言に当たり、また発表会での講評も行いました。

言語活動にかかわって、教員以外に図書館に精通した人がいることは心強いことで、日常的な読み聞かせやブックトークなども盛んになってきました。

<B校の実践>

言語活動において図書等を活用するよう努めました。

1年算数「とけい」の単元の導入において、時間に関する内容のある様々な図書の読み聞かせをして、日常生活での時計の活用を知らせ、興味をもたせました。図書の中で使われていた「いまなんじ?」「〇時〇分だよ」などの受け答えを使って尋ね合う活動につなげました。

4年理科「星座」の学習では、星座について図書で調べ、ポスターにまとめて発表しました。その際に、さそり座が見えなくなる頃にオリオン座が上ってくるなど、星の動きと神話とのつながりに着目して説明するよう児童に働きかけたので、楽しい発表ができました。協力員は授業のねらいに沿った図書のコーナーを設けるとともに、児童個々のレファレンスに対応しました。

また、次のような指標から児童の変容をとらえました。

- ・調べ学習への意欲
- ・調べ学習の態度
- ・本を探し出す力
- ・ページを探し出す力
- ・まとめる力

例えば、「ページを探し出す力」では、半数近い児童がA評価である一方、「本を探し出す力」ではA評価は3割未満にとどまっていることが分かるなど、実践における今後の課題を明確にすることができました。



<C校の実践>

全校児童による言語活動「全校ペア読書」を行いました。下学年と上学年の児童がペアを作り、上学年児童それぞれが選んだ本を下学年に読み聞かせるという活動です。選書と読みの練習を図書館で行いました。協力員が作成して配付した「ペア読書 本の選び方、読み方」という資料が役立ちました。以前に行った際は特定の作品に集中しましたが、今年度はほとんど重なりがなく、児童の主体性が向上したことが実感できました。

こうした活動の前提として日常的に読書に親しむ活動を大切にしました。月に数回昼休みに行う図書館ボランティアによる読み聞かせ、協力員によるブックトークなどです。「命」「言葉」「思いやり」などテーマを設定して行ったり、要望のあったテーマなどで行ったりしました。

<D校の実践>

調べ学習等や選書の基本となる学校図書館の基本的事項についての学習を展開しました。2年生では、前年に図書館指導がなされていましたが、「本探しと返却」ゲームを行い、繰り返しによる定着をねらいました。指定した本を児童が探し出してきて、別の児童がそれを正しい位置に返却してくるというものです。学校図書館の配架(10進分類を基本)の把握状況をとらえることができました。図書や資料を的確に探し出す力を身に付けさせることにつながるものです。そして、主体的な学習活動の基盤ともなるものです。

こうした基盤の上で調べ学習等を行うことにより、例えば、児童へのアンケート調査結果(下表:数字は%)のように、学習への関心や学習方法の理解が向上した学年があります。

調査項目		3年	4年	5年	6年
調べ学習が	好きになった	78	71	64	20
	あまり変わらない	22	29	36	79
	きらいになった	0	0	0	1
本の選び方や資料の使い方が	よく分かるようになった	49	12	80	7
	だいたい分かるようになった	49	88	20	92
	あまりわからないはまだ	2	0	0	1

<E校の実践>

2年国語「詩のおもちゃ箱」～わたしだけのアンソロジー作り～の学習では、たくさんの詩に触れさせ、その中で好きになった詩にイラストや感想など、そして触発されて創作した自分の詩を添えてアンソロジーづくりをしました。このため、授業者は協力員とともに市立図書館の協力を得てたくさんの詩集を用意しました。児童は授業時だけでなく、常に読書に集中し、詩の暗唱などにも進んで取り組みました。

こうした学習を支える取組として「親子DE読書」を行いました。家族で1冊の本を読み、語り合い、記録するという活動です。この活動で、読書への関心を高め、主体的なコミュニケーションの力を向上させようと考えました。授業を含め、様々な場で図書に触れることの効果が見て取れます。



■ こうした各協力校の取組を、研究主題に照らして以下のようにまとめてとらえました。

調べ学習や言語活動それぞれのねらいに即して学習環境を整備すること

選書能力を高めたいのに、すぐに児童に図書を与えてしまっただけでは効果がありません。関連本コーナーを設ける場合もねらいの達成に向けたものでなければ主体性の伸長には寄与しません。その見極めが必要です。

言語活動にかかわる学校図書館の活用例を共有し深化すること

議論したり、書いたりという言語活動には図書などはあまり必要ないという意識から脱却することが必要です。多くの実践から、図書などを介することで、議論や記述に深まりが出ていることが確認されました。学校での実践を蓄積・分析し、職員間で共有しつつ、繰り返し実践することで一層の深化が図られます。

調べ学習や言語活動を視野において蔵書や配架の見直しや整備を進めること

総冊数のみで図書館整備を完了させてしまわぬよう、力点を置く学習活動に必要な種類の蔵書を充実させるなど、職員、学校司書、図書館ボランティア等による見直しや整備を進める必要があります。その際、学校間及び公立図書館との連携が大変役に立ちます。

子どもたちに「すてきな本に出会える環境づくり」と「読書に親しむ習慣づくり」を...

亀山市ファミリー読書リレー

亀山市教育委員会

本市では、平成18年度～20年度において、国の「学校図書館支援センター推進事業」の指定を受け、市内小学校5校に、図書館協力員を配置し、子どもたちが通いたくなるような“人”がいる温かい学校図書館、楽しい学校図書館づくりに取り組んできました。その結果、図書館環境の整備は進み、子どもたちの利用数や本の貸出数も増えました。その成果を受け、平成21年度より、市の単独事業「学校図書館支援事業」として、市内小学校5校に、図書館協力員を継続配置し、図書館の環境整備や読書支援、学習支援をしています。

また、平成20年3月には、「亀山市子ども読書活動推進計画」を策定し、「子どもが読書に親しむ習慣づくり」「子どもの図書環境づくりの充実」「子どもが素敵な本と出会えるような環境づくり」を基本方針とし、子どもの読書活動を推進しています。

その一環として、平成21年度には、国の「『子ども読書の街』づくり推進事業」の指定を受け、「亀山市ファミリー読書リレー」に取り組みました。毎週、学校・園で絵本の入ったバッグを受け取り、家庭で家族といっしょに読書をしします。1冊読んだら、「どくしょの木」にシールを貼るとともに、読んだ感想やコメントをつけて次の家族へ、そして、また新しい本を受け取るというように、家族から家族へと本を読みつないでいきます。



平成21年度は、1園7小学校約300家族のみなさんに参加していただきました。読書リレーに参加いただいた家族のみなさんからは、「いろいろな本に触れることができ、読書の楽しさを再発見した。」「本を介して、家族で楽しいひとときを過ごすことができた。」など、うれしい声が多く寄せられました。そして、実施校・園においては継続実施を、また未実施校・園においては実施を望む声をたくさんいただき、平成22年度より、全幼稚園年長児・全小学校1年生他へと対象を広げました。その結果、本年度は775家族による読書リレーとなりました。

子どもたちとその家族のみなさんは、リレーをとっても楽しみにしており、毎週、バッグを持ち帰るときには、「どんな本が入っているかな。」とバッグの中をのぞきこんだり、「それ、わたしも読んだよ」と本を介して友だち同士、保護者同士が楽しそうに話したりする姿が見られました。



このファミリー読書リレーの取組が、子どもたちの読書習慣の形成とコミュニケーション力の向上、そしてやがては学ぶ力へとつながっていくことを願い、今後も継続していきたいと考えています。

本校では、自らの夢の実現や自分が抱えた問題を解決するために、図書館を活用できる子の育成を目指し、図書館教育に取り組んでいます。具体的には、日常的な読書活動を推進するとともに、学校図書館を活用した子どもたちの読書意欲を高めるための読書指導と効果的な教科指導を年間を通し、すべての教科にわたって、計画的に取り入れています。

日常的な読書活動の1つに、全校一斉朝の読書があります。その際、6月と11月は、「耳からの物語体験」



月間と称し、担任の先生による朝の連続小説が行われます。これは、教師と子どもが物語を楽しむ時間を共有し、質のいい物語を速読でなく、丁寧に楽しく物語の筋を聞きとることにより、想像力や思考力を養うことをねらっています。教室では、みんなが同じ所で笑ったり、驚く声があがったりして、一体感が生まれます。また、1月から2月にかけて、日本絵本賞読者賞投票



に参加するため、担任の先生が、候補絵本24冊を日替わりで読み聞かせをします。この期間、教室や職員室では、本に関する話題を共有

することができ、どの絵本がおもしろいとか、読んだ時の子どもの反応などの話題で盛り上がります。担任の先生が長編物語や絵本の読み聞かせをすることで、読書が苦手な子どもにとっても、本に親しみ、物語の構造を感じ取るよい機会となっています。

子どもの読書習慣を確立するには、家庭での読書環境を整えることも重要です。

今年度は、新入児就学時健診において、保護者対象に、司書教諭による『絵本で子育て』をテーマに絵本講座を開きました。そこで、子育てにおける絵本や読み聞かせの意義やよい絵本の選び方などを伝えました。また、子どもたちは、子どもの読書週間と秋の読書週間に合わせて、親子読書に取り組めます。保護者の方からは、「子どもとのふれ合いの時間がもてた。」「子どもの成長を感じ、うれしくなった。」というような感想がたくさん寄せられています。新聞週間には、親子で新聞を読む取り組みも行っています。昨年度は、「お気に入りの写真を見つけよう！」「親子で記事を読んでみよう！」、のテーマ、今年度は、「ハッピーニュースをさがそう！」をテーマに、親子で気になる写真や記事を見つけたりして、感想を交流しました。

一方、学校図書館を活用した授業を行うにあたり、毎学期ごとに、担任の先生による学校



図書館活用計画をもとに、学校図書館を活用する教科・単元と活用内容を載せた一覧表を作成します。その計画に基づき、図書や資料を収集します。主に、国語での物語教材での発展読書や説明文教材での調べ学習、生活科や総合的な学習の時間での調べ学習で学校図書館を活用します。

今後も学校図書館のもつ機能が教育課程全体において発揮できるよう、担任教諭と司書教諭、学校図書館巡回指導員や読書環境整備支援員等子どもと子どもの本に関わるすべての人との連携を図っていく必要があります。